

平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇二〇―九

平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡

2021年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物新築工事に伴う平安京跡・西ノ京遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

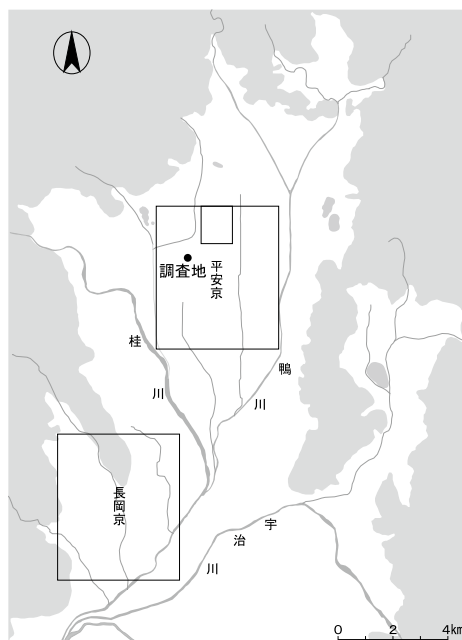
令和3年8月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡・西ノ京遺跡（京都市番号 18 H 767） |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区西ノ京下合町19番地ほか |
| 3 委 託 者 | 株式会社 京都メディカルクラブ 代表取締役社長 田辺智子 |
| 4 調査期間 | 2021年1月7日～2021年2月5日 |
| 5 調査面積 | 232.2㎡ |
| 6 調査担当者 | 岡田麻衣子 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「花園」・「山ノ内」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 岡田麻衣子 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |

（調査地点図）



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 調査地と環境	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 平安時代の遺構	6
(4) 室町時代の遺構	9
4. 遺 物	10
(1) 遺物の概要	10
(2) 土器類	10
5. ま と め	11

図 版 目 次

図版1	遺構	1	調査区全景（西から）
		2	柱穴列2（西から）
		3	土坑26・27（南西から）

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：3,000）	1
図2	調査区配置図（1：800）	2
図3	調査前全景（北西から）	2
図4	作業状況（南から）	2
図5	重機掘削（南東から）	2
図6	転圧作業（北東から）	2
図7	周辺調査位置図（1：5,000）	3
図8	基本層序図（1：30）	6
図9	調査区実測図（1：150）	7
図10	柱穴列1・2実測図（1：50）	8
図11	土坑26・27断面図（1：50）	8
図12	出土土器類	10
図13	平安時代における十四町の遺構配置図（1：1,000）	11

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	6
表3	遺物概要表	10

平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡

1. 調査経過

本調査は、御池クリニック南側新館の新築工事に先立って実施した発掘調査である。調査地は、平安京右京三条二坊十四町跡の南東部に位置し、弥生時代から古墳時代の西ノ京遺跡の範囲内に位置する。

調査に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）によって試掘調査が実施され、平安時代と中世の遺構が検出されている。また、周辺の調査では、平安時代前期から中期の建物・柱穴・土坑・溝・井戸・柵・園池、鎌倉時代の柱穴・井戸などの遺構が多数検出されており、試掘調査と周辺調査の成果から原因者に対して発掘調査の必要があると文化財保護課から指導がなされた。発掘調査は、原因者から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行った。調査面積は、文化財保護課の指導により調査地南部に南北8.6m、東西27mの232.2㎡である。調査は2021年1月7日に開始した。調査の結果、平安時代前半の柱穴列や室町時代の土坑などを確認した。

調査中は適宜、文化財保護課による臨検と当調査の検証委員である近畿大学の網伸也教授と立命館大学の木立雅朗教授による検証・指導を受け、図面作成・写真撮影などの記録作業を行い、2月5日に現地調査を終了した。調査終了後は、調査区内の砂埃が周辺に飛ばないように塩化カルシウムをまき、プレートコンダクターで転圧作業を行った。

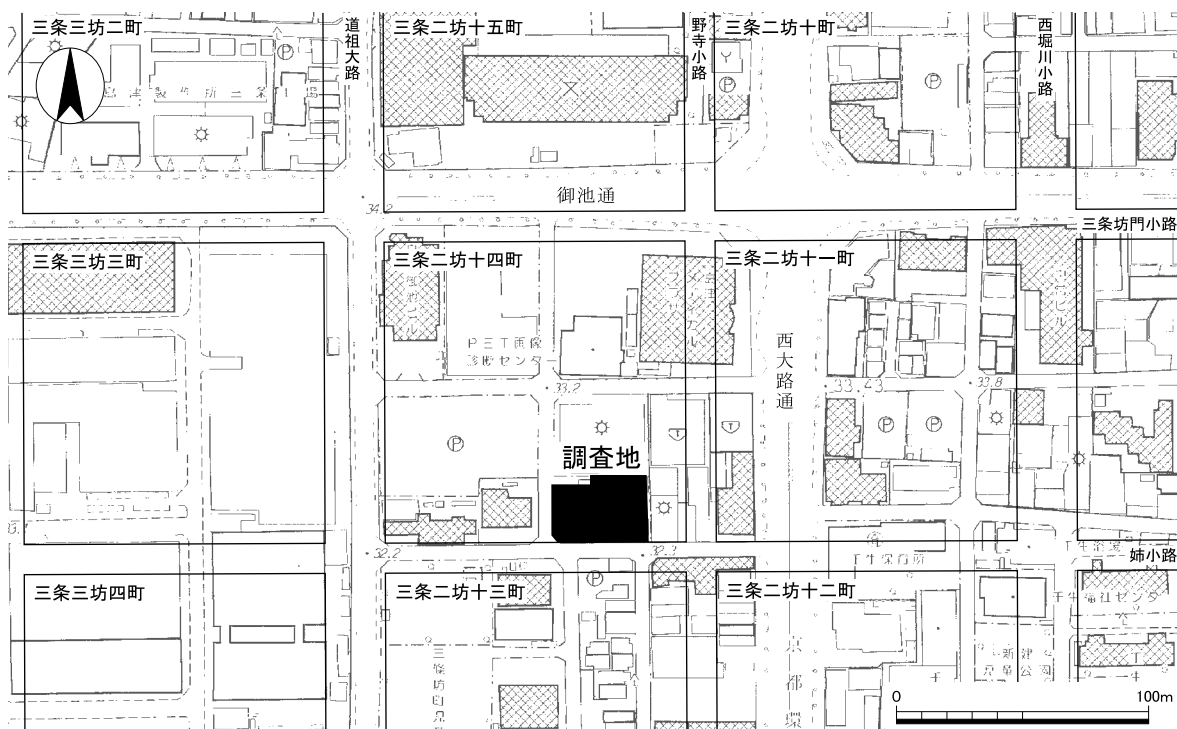


図1 調査位置図 (1 : 3,000)

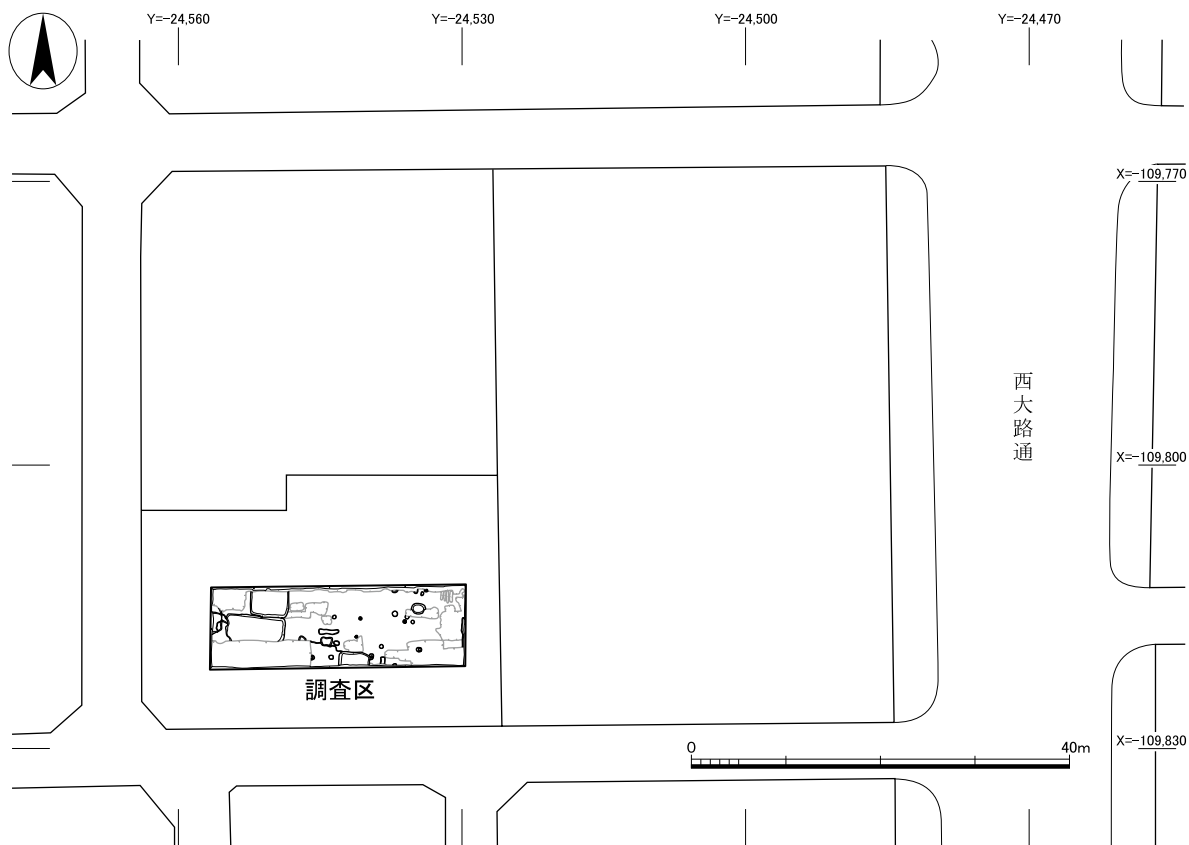


図2 調査区配置図 (1 : 800)



図3 調査前全景 (北西から)



図4 作業状況 (南から)



図5 重機掘削 (南東から)



図6 転圧作業 (北東から)

2. 位置と環境

(1) 調査地と環境

調査地は、京都盆地北西部に位置し、鷹峯を源流とした紙屋川（天神川）の扇状地上に立地する。また当地は、弥生時代から古墳時代の西ノ京遺跡の南部、及び平安京跡に該当し、北を三条坊門小路、南を姉小路、東を野寺小路、西を道祖大路に囲まれた平安京右京三条二坊十四町跡の南部に位置する¹⁾。

調査地である十四町に関連する文献資料はほとんど残っていないが、近世以降になると地図に当地は西京村域内の耕作地として図示されている²⁾。

(2) 既往の調査（図7、表1）

調査地周辺は、これまで会社や工場の建設工事に伴い、多くの発掘調査が実施されている。主な調査成果を図7と表1にまとめた。以下、既往調査成果から確認できる調査地周辺の様相について述べる。

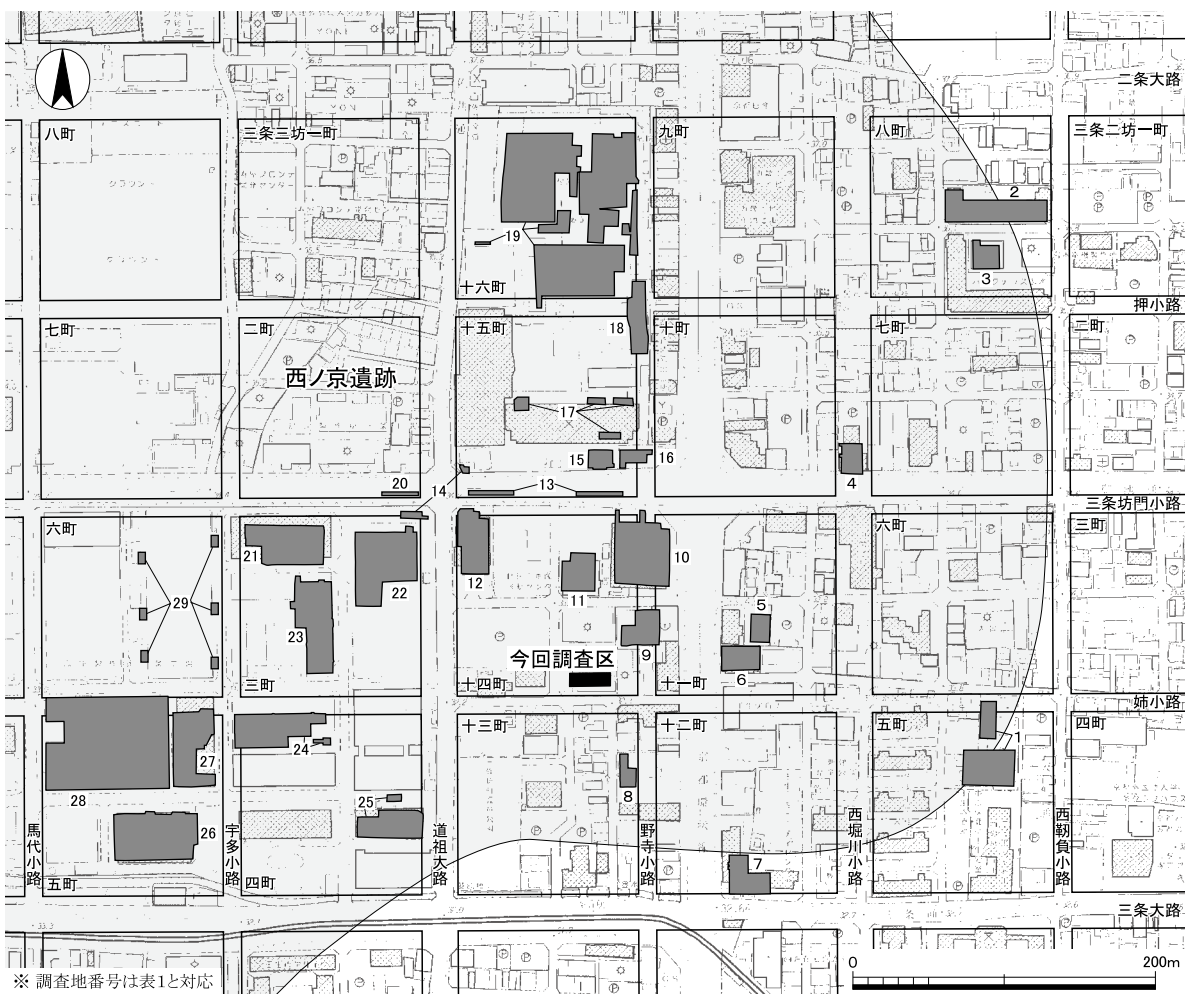


図7 周辺調査位置図（1：5,000）

表1 周辺調査一覧表

番号	条坊地点	主要遺構	文献
1	右京三条二坊五町	平安時代の建物・井戸・溝(姉小路南側溝など)・柵	平尾政幸ほか「平安京右京三条二坊」『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年
2	右京三条二坊八町	平安時代の建物・井戸・溝・柵・園池	堀内明博ほか「平安京右京三条二坊」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989年
3	右京三条二坊八町	平安時代の柱穴・園池	辻 裕司「平安京右京三条二坊1」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
4	西堀川小路	平安時代前期の建物、平安時代中期の路面・西堀川小路西側溝	平尾政幸ほか「右京三条二坊」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年
5	右京三条二坊十一町	平安時代前期の建物、鎌倉時代の耕作溝	モンペティ恭代『平安京右京三条二坊十一町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書 2006-24 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
6	右京三条二坊十一町	平安時代前期～中期の井戸・土坑・溝・柱穴、中世以降の遺物を含む氾濫堆積層	報告書などは未刊。『平安京右京三条二坊十一町跡発掘調査終了報告書』古代文化調査会 1994年
7	右京三条二坊十二町	平安時代前期の建物・井戸	平尾政幸「平安京右京三条二坊」『平安京跡発掘調査概要 京都市埋蔵文化財研究所概要集1978』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1979年
8	右京三条二坊十三町	鎌倉時代～室町時代の土取り跡・柱穴、江戸時代の耕作跡	山口 真『平安京右京三条二坊十三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-19 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2005年
9	右京三条二坊十四町	平安時代前期の井戸・柱穴、平安時代中期～室町時代初め頃の野寺小路川跡、水利施設	布川豊治『平安京右京三条二坊十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-1 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年
10	右京三条二坊十四町	平安時代前期～中期の三条坊門小路南側溝、野寺小路東西両側溝、柵、野寺小路川	木下保明「平安京右京三条二坊2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
11	右京三条二坊十四町	平安時代前期の建物・柵、近世の土取り土坑	報告書は未刊。『平安京右京三条二坊十四町発掘調査終了報告書』より(財)古代学協会 2002年
12	右京三条二坊十四町	三条坊門小路南側溝、平安時代の建物・門・柵・井戸・道祖大路川	南 孝雄「平安京右京三条二坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
13	右京三条二坊十五町	平安時代前期の土坑・井戸・柱穴、室町時代の溝	百瀬正恒ほか『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
14	右京三条二坊十五町	平安時代前期～中期の南北溝・川跡・側溝	卜田健司『平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2005年
15	右京三条二坊十五町	平安時代前期の溝、柱穴、中世の井戸	本 弥八郎「平安京右京三条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
16	右京三条二坊十五町	平安時代中期の建物・溝・柵、平安時代後期の野寺小路川・柵	津々池惣一『平安京右京三条二坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-8 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
17	右京三条二坊十五町	平安時代前期～中期の池・土壇・柵	鈴木廣司ほか『平安京右京三条二坊十五・十六町-「齋宮」の邸宅跡-』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
18	右京三条二坊十五～十六町	平安時代中期の押小路両側溝・建物・井戸、平安時代後期の野寺小路川	辻 純一「右京三条二坊(2)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年
19	右京三条二坊十六町	平安時代前期～中期の建物群・庭園・泉	鈴木廣司ほか『平安京右京三条二坊十五・十六町-「齋宮」の邸宅跡-』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
20	右京三条三坊二町	平安時代前期の土壇・井戸・柱穴、室町時代の溝	百瀬正恒ほか『平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2002年
21	右京三条三坊三町	古墳時代前期の溝、平安時代前期の建物・柵・井戸・溝	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年
22	右京三条三坊三町	平安時代前期～中期の建物・井戸・道祖大路東側溝	南 孝雄『平安京右京三条三坊三町跡・西ノ京遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-23 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2013年
23	右京三条三坊三町	古墳時代前半の溝、平安時代前期の井戸・柵・小径・土坑	山本雅和ほか『平安京右京三条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-4 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
24	右京三条三坊四町	古墳時代中期の溝、平安時代前期の建物・宇多小路東築地と内溝・姉小路南築地溝	田中利津子ほか『平安京右京三条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-4 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2012年
25	右京三条三坊四町	平安時代前期の道祖大路西築地内溝・橋・建物・土坑	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年
26	右京三条三坊五町	平安時代前期の建物・柵・溝	平尾政幸「平安京右京三条三坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
27	右京三条三坊五町	平安時代前期の建物・柵・井戸・姉小路内溝	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年
28	右京三条三坊五町	平安京造営前の土坑・流路、平安時代前期の建物・柱穴列・路面・築地・溝、鎌倉時代以降の溝	山本雅和ほか『平安京右京三条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-15 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2018年
29	右京三条三坊六町	古墳時代以降の湿地状堆積	平尾政幸ほか『平安京右京三条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1990年

奈良時代以前 この時代の遺構密度は低く、調査21・23・24で幅約1m、深さ0.4～0.8m程の古墳時代前期から中期の溝が数条検出されている。

平安時代 今回の調査地周辺では、平安時代前期から中期の建物・井戸・柵などが多数検出されている。調査地周辺における特筆すべき調査として、調査9～12・19が挙げられる。調査9・10では、野寺小路跡を検出し、平安時代中期頃までは道路として機能していたが、平安時代後期になると道路部分が河川へと改変された状況を確認している。調査11では、平安時代前期の1または2面の庇をもつ建物や宅地境界を示す柵を検出しており、二面庇建物を中心とした1/8町の宅地割が想定されている。調査12では、平安時代前期から中期の建物・柵・井戸などを検出している。平安時代中期頃になると道祖大路が河川化していき、その影響を受けた宅地側の変化が明らかになっている。調査19では、平安時代中期の庭園を有する1町規模の邸宅跡が検出され、出土した墨書土器の記述内容から斎王邸宅跡と推定された。

以上、平安時代前期から中期における宅地利用の様子が調査成果からうかがえる。平安時代中期以降になると、建物などの居住に関する遺構が減少することから、宅地としての土地利用が衰退していくことがわかる。しかし、人が減少する右京に道路を掘削した大規模な人工河川である道祖大路川や野寺小路川が維持されていることから、耕作地としての土地利用があったことを示唆³⁾されている。

調査18では押小路に面した場所で平安時代中期の建物が検出されていることから、この時期一部で居住域として再開されること³⁾がわかる。

鎌倉時代以降 調査8で鎌倉時代から室町時代の柱穴や土取り跡が検出されているのみで、居住に関連する遺構はほとんど検出されなくなる。対して、多くの調査地で耕作溝を検出しており、この時期になると調査地周辺は耕作地となっていくことがうかがえる。

註

- 1) 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課『京都市遺跡地図』京都市文化市民局公式ホームページ 2021年
- 2) 大塚 隆編『慶長・昭和 京都地図集成』柏書房 1994年
- 3) 南 孝雄「第四章 衰退後の右京 - 十世紀後半から十二世紀の様相 -」『平安京の地域形成』京都大学学術出版 2016年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図8)

調査地は駐車場として利用されており、現地表面の標高は約32.5mで、ほぼ平坦である。

調査地の基本層序は、現地表面から順に現代盛土(厚さ約0.6m)、中世以降の耕作土(厚さ約0.15m)、地山である。

調査は地山直上を遺構面として遺構検出を行い、平安時代と室町時代の遺構を検出した。

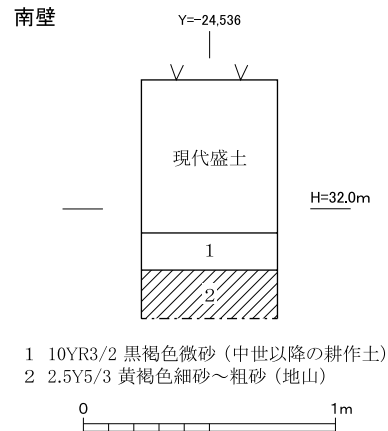


図8 基本層序図 (1:30)

(2) 遺構の概要 (表2)

今回の調査では周辺調査と比べて遺構密度が低く、平安時代と室町時代の遺構を28基検出した。平安時代の遺構は、柱穴列1・2のみである。ただし出土遺物はなく、遺構の形状と埋土の状況から判断した。室町時代の主な遺構は土坑18・26・27・35など大きさや深さなど規模が異なる土坑を複数検出した。

以下、検出した主要な遺構について述べる。

(3) 平安時代の遺構 (図9、図版1)

柱穴列1 (図10) 調査区北端で検出した東西方向の柱穴列である。攪乱によって一部失われているが、3基を検出した。方位はほぼ正方位である。柱穴の平面形は楕円形を呈し、規模は径0.4~0.6m、深さは0.15~0.3mである。遺物が出土していないため、時期を特定できないが、柱穴の形状と埋土の状況から平安時代前期から中期の柵と考えられる。

柱穴列2 (図10、図版1) 調査区北南部で検出した東西方向の柱穴列である。土坑18によって一部失われているが、3基を検出した。方位はほぼ正方位である。柱穴の平面形は楕円形を呈し、規模は径0.45~0.6m、深さは0.1~0.55mである。遺物が出土していないため、時期を特定できないが、柱穴の形状と埋土の状況から平安時代前期から中期のものと考えられる。柵または調査区外南側へ展開する建物の可能性がある。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代前期～中期	柱穴列1・2	
室町時代	土坑18・26・27・35	

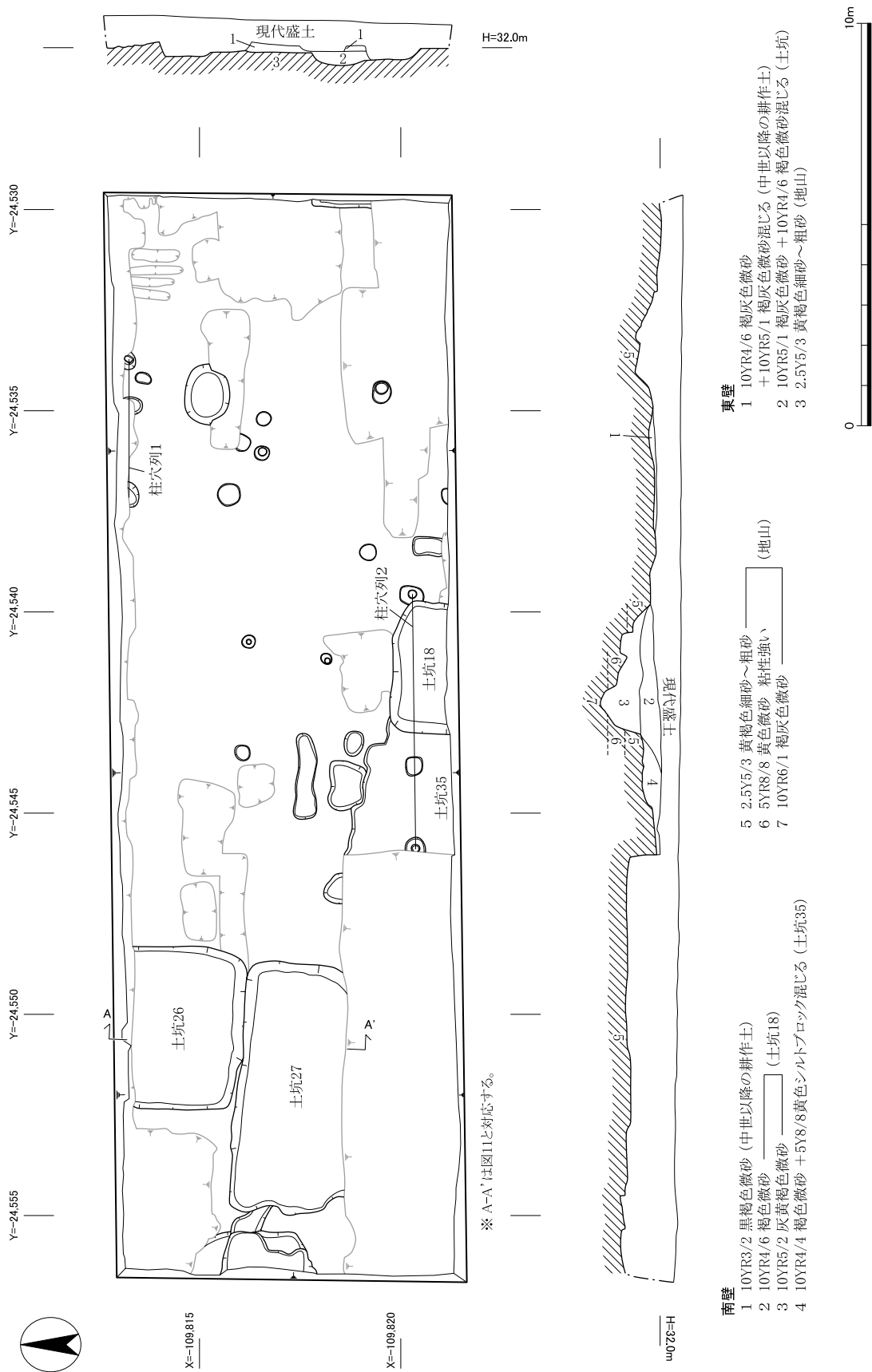


図9 調査区実測図 (1 : 150)

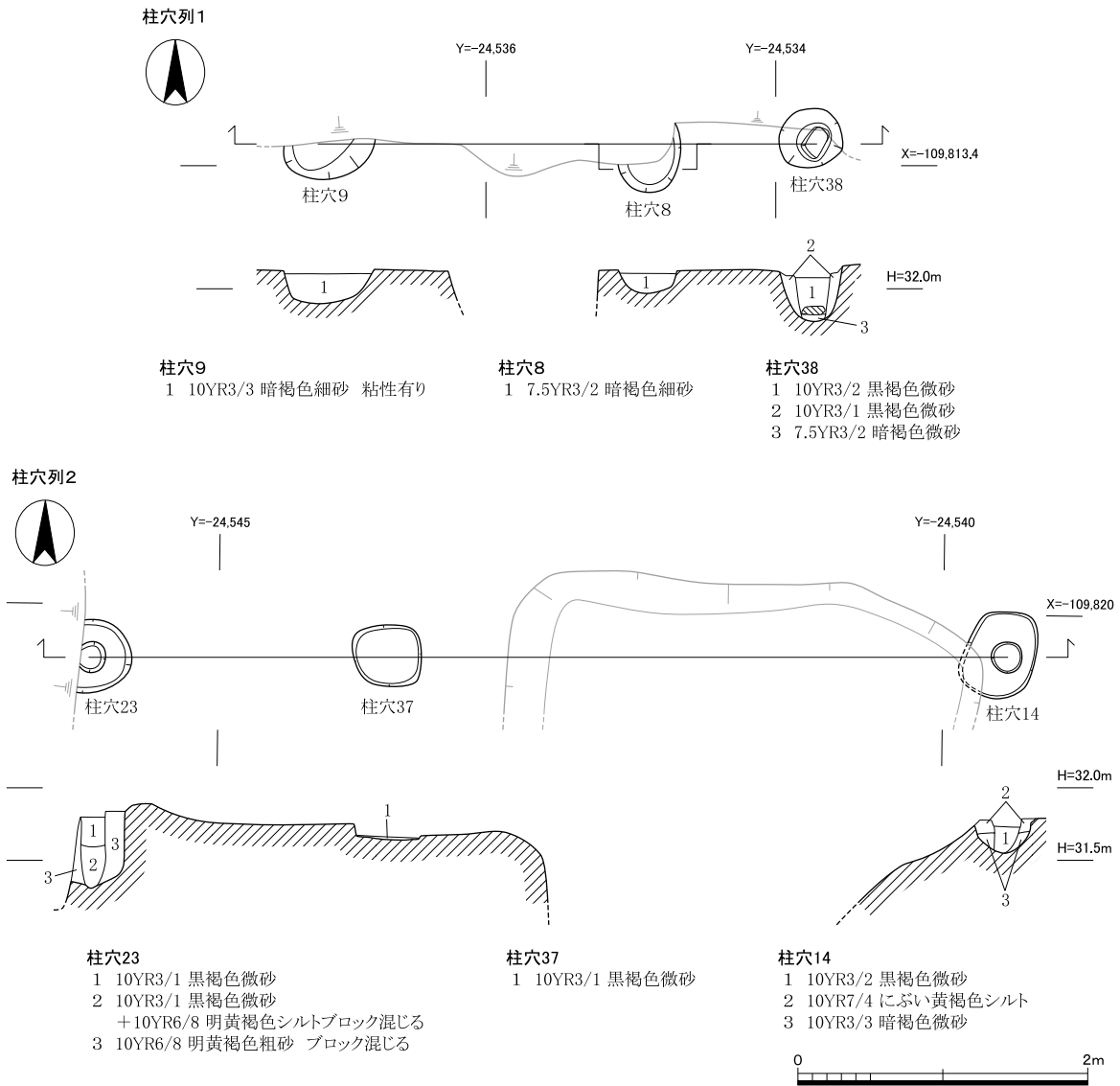


図10 柱穴列1・2実測図 (1:50)

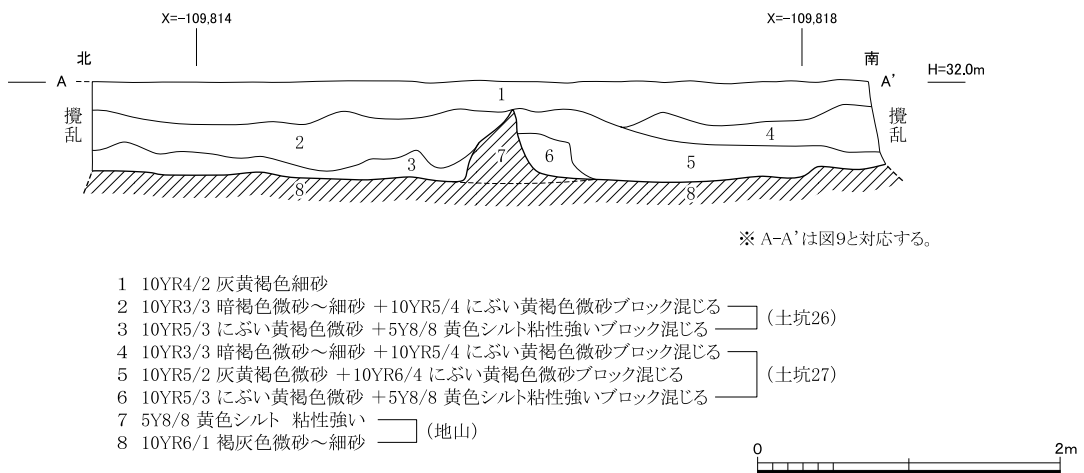


図11 土坑26・27断面図 (1:50)

(4) 室町時代の遺構 (図9)

土坑18・35 調査区南部で検出した土坑である。平面形は土坑18がほぼ方形、土坑35がやや不整形であり、ともに調査区外南側へ延長する。規模は土坑18が南北1.8m以上、東西3.3m以上、土坑35が南北2.8m以上、東西3m以上ある。深さは土坑18が検出面から1.5m、土坑35が0.5mである。土坑18の底面は凹凸になっており、褐灰色微砂上面が土坑底面である。地山の粘性の強い黄色土を対象に採取した土取り土坑と考えられる。断面の観察から土坑18と土坑35は一連の土取り作業によるものと考えられ、土坑18の深い箇所を初めに埋め、さらに土坑35・18の上層部を埋めた様子が確認できる。出土遺物は室町時代の土師器、瓦器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器などが出土している。

土坑26・27 (図11、図版1) 調査区西部で検出した土坑である。平面形は方形を呈する。規模は土坑26が南北3m以上、東西4mあり、調査区外北側へ延長する。土坑27が南北2.5m以上、東西6.2mあり、南側は攪乱によって失われている。いずれも深さは検出面から0.6mあり、底部は平らに掘られる。先述した土坑18と同様に、褐灰色微砂上面が土坑底面であることから、土取り土坑と考えられる。断面の観察から、2つの土坑における最終的な埋戻しが同時に行われたことが確認できる。出土遺物は室町時代の土師器、瓦器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器などが出土している。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要 (表3)

今回の調査では、整理コンテナにして2箱の遺物が出土した。出土遺物には、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、瓦質土器、焼締陶器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦がある。そのうち9割以上を土器類が占めており、その他はごくわずかである。

遺物は全て小片であるため図化できなかつたが、時期的には平安時代と室町時代と大きく2時期に分かれる。内訳として、平安時代前期から中期が7割、後期が1割、室町時代が2割となる。また、遺物は全て室町時代の遺構から出土しており、平安時代の遺物は室町時代の遺構に混入して出土した。

(2) 土器類 (図12)

図12は、室町時代の代表的な遺物である。1・2は土師器皿。3は瓦質土器火鉢。4は信楽産の焼締陶器播鉢。5は瀬戸・美濃系の施釉陶器椀。6・7は輸入陶磁器で、龍泉窯系の青磁椀。

1・3は土坑26、2・4・5は土坑27、6・7は土坑18から出土した。

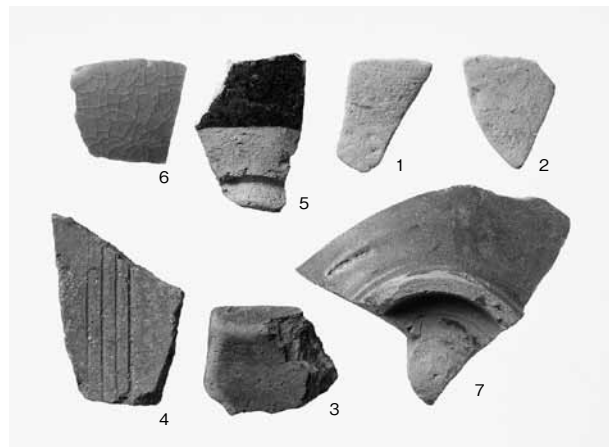


図12 出土土器類

表3 遺物概要表

時代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
平安時代前期 ～中期	土師器、須恵器、黒色土器、 緑釉陶器、灰釉陶器、瓦				
平安時代後期	土師器、須恵器				
室町時代	土師器、瓦器、瓦質土器、焼 締陶器、施釉陶器、輸入陶磁 器		土師器2点、瓦質土器1点、 焼締陶器1点、施釉陶器1点、 輸入陶磁器2点		
合 計		3箱	7点(1箱)	0箱	2箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

5. まとめ

本調査地は、西ノ京遺跡の南部、及び平安京右京三条二坊十四町跡の南東部に位置する。

調査の結果、平安時代前半と室町時代の遺構・遺物を確認した。平安時代前半の遺構は柱穴列1・2、室町時代の遺構は土坑18・26・27・35などを確認し、当地における土地利用の変遷を明らかにすることができた。

平安時代 この時期の遺構は、柱穴列1・2を検出している。柱穴列1は東一行北七門と八門の境界付近で検出していることから、宅地を分割する宅地内の柵と考えられる。また、柱穴列2は柵か調査区外南側へ展開する建物と考えられる。

既往調査と比較すると、遺構密度は低いものの、平安時代前半には当地においても宅地としての土地の利用があったことが確認できた。また、調査11・12などの既往調査では一定規模を有する建物が検出されている。このことから当地は、規模は不明であるが宅地内における空閑地にあた

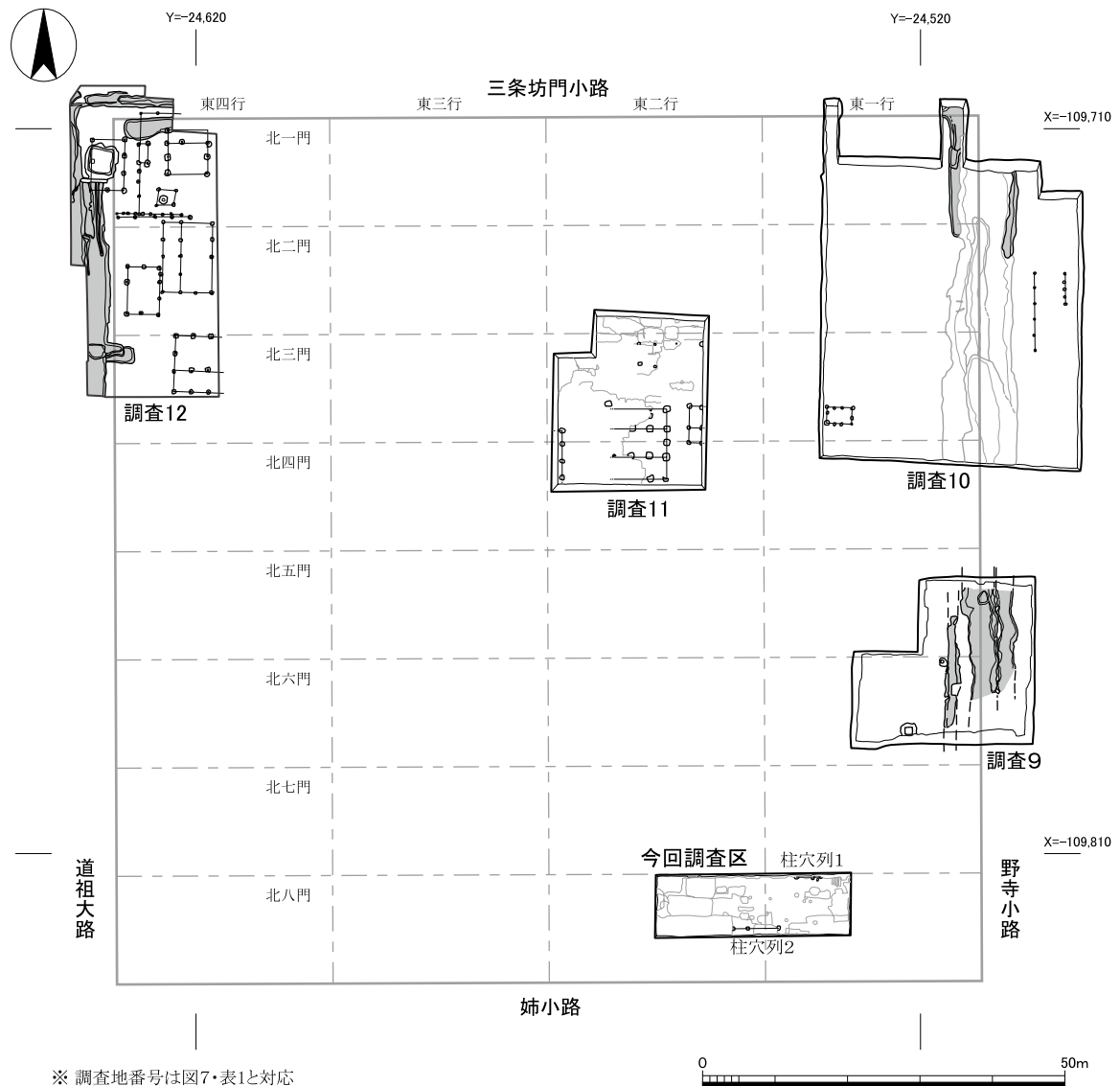


図13 平安時代における十四町の遺構配置図 (1 : 1,000)

る場所であった可能性がある。

十四町内における宅地規模については、現段階で断定することは難しい。今後のさらなる調査成果データの蓄積に期待したい。

室町時代 今回の調査では室町時代の土坑18・26・27・35を確認した。調査9・10・11においては室町時代から近世の土取り穴が検出されている。当地周辺では室町時代から近世にかけて土取りが行われていたことが明らかとなった。

圖 版



1 調査区全景（西から）



2 柱穴列2（西から）



3 土坑26・27（南西から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうにぼうじゅうよんちょうあと・にしのきょういせき							
書名	平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2020-9							
編著者名	岡田麻衣子							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2021年8月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 にしのきょういせき 西ノ京遺跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしのきょうしもあいちょう 西ノ京下合町 ばんち 19番地ほか	26100	1 461	35度 00分 35秒	135度 43分 52秒	2021年1月 7日～2021 年2月5日	232.2m ²	建物新築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 西ノ京遺跡	都城跡 散布地	平安時代前期 ～中期 平安時代後期 室町時代	柱穴列 土坑	土師器、須恵器、黒色 土器、緑釉陶器、灰釉 陶器、瓦 土師器、須恵器 土師器、瓦器、瓦質土 器、焼締陶器、施釉陶 器、輸入陶磁器		平安時代前半の柱 穴列と室町時代の 土取り土坑を検出 した。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2020-9

平安京右京三条二坊十四町跡・西ノ京遺跡

発行日 2021年8月31日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961